

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立新居浜商業高等学校
学校番号(8)

教育方針	人間力を高め、いきいきと活動し、将来をたくましく生き抜く生徒の育成 ～地域に貢献し、地域に愛され、地域とともに歩む新商～	重点目標	1 基礎学力の定着を図り、時代の変化に対応したビジネス教育を推進する。 2 基本的生活習慣の確立を行い、気持ちの良い挨拶のできる生徒を育成する。 3 地域と一体となった教育活動を推進し、ICT機器の効果的な活用に努める。 4 キャリア教育の充実させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けた生徒を育成する。 5 ビジネススキルと倫理観を身に付け、地域や経済社会の発展に貢献できる生徒を育成する。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教科指導の充実	教材、教具の活用や個別指導、習熟度別学習、ティーム・ティーチングなど基礎・基本の定着を目指し、常に生徒が興味・関心を持って授業に参加できるよう工夫する。	B	ティーム・ティーチングや少人数講座の授業など、「分かる授業」を基本として取り組み、9割以上の生徒が、授業内容に対して先生の熱意を感じている。	引き続きティームティーチングや少人数講座を奨励し、生徒の興味・関心を喚起しつつ、「分かる授業」の実践に努める。
		適正な評価ができるよう教科会等における教員相互間の連携を密にし、意識統一を図る。	B	定期考査前後はもちろん、週1回の頻度で教科会を実施できるよう時間を取ることができた。	各講座の進度や、個々の生徒の学習状況を教科内で適切に共有し、公正な評価に努める。
		実社会を見据え、時間厳守・身だしなみ・言葉遣いの指導など、生活指導を行うことにより、職業人に求められる心構えや態度を身に付けさせる。皆勤者100名以上、出席率95%以上を目指す。 皆勤者 A:100名以上 B:99～90名 C:89～80名 D:79～70名 E:70名未満 出席率 A:95%以上 B:94～90% C:89～85% D:84～80% E:80%未満	C	2学期末現在で、皆勤者は76名と目標を達成できていない。出席率は91.01%であった。遅刻する生徒も多く見られた。遅刻・欠席の回数に応じて、段階的な指導を行ってきた。	遅刻・欠席の指導については、指導方法も含め改善できるよう検討したい。授業中のトイレの利用も以前と比べて増加しており、授業に対して軽視する状況もうかがえる。意識を改善できるような指導について検討した。
		学年＋1時間を目標に家庭学習に取り組めるよう適切な学習課題を与え、学習習慣を身に付けさせる。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:60%未満	C	検定前や考査中には意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。提出物についても、期限内に提出できる生徒も増え、学習の習慣化が伺える。	特定の生徒において、課題の提出状況の不良が見られる。家庭での学習が難しい生徒に対して、放課後学習など、習慣化の方法を考えたい。
		学年＋1時間を目標に家庭学習に取り組めるよう適切な学習課題を与え、学習習慣を身に付けさせる。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:60%未満	C	検定前や考査中には意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。提出物についても、期限内に提出できる生徒も増え、学習の習慣化が伺える。	特定の生徒において、課題の提出状況の不良が見られる。家庭での学習が難しい生徒に対して、放課後学習など、習慣化の方法を考えたい。
生 徒 指 導	規範意識を高める指導	端正な身だしなみを心がける指導を徹底する。 身だしなみ指導合格率 A:100% B:99～97% C:96～94% D:93～91% E:91%未満	B	再指導になる生徒はいたが、ほぼ100%の生徒が身だしなみ指導に合格している。入学時にピアスの穴がいくつも開いている生徒、髪を脱色・染色している生徒が増加している。	ピアスの穴、髪の色・染色については、継続指導を行っている。また、改善を求めて、保護者に協力をお願いしてきた。次年度も粘り強く指導していきたい。
		スマートフォンやタブレット端末の使用も含め、情報モラルの高揚を目指す。 情報モラルを逸脱した行動による特別指導の件数 A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件以上	E	授業中の様子を撮影・投稿した生徒(3名)、授業中にクラスのグループラインに不適切な投稿をした生徒(2名)、不適切な動画配信(2名)、SNSによる個人情報流出1名に対して特別指導を行った。	昼休みには毎日6名の教員が巡視をしている。来年度も継続して巡視を行っていききたい。生徒に隙を与えない授業と校内巡視及び生徒の観察を徹底していきたい。
	交通安全指導の充実	自転車交通マナー向上のための注意喚起に努めるとともに、市内一斉の登校指導や毎日の登下校指導を充実させる。 自転車による加害及び被害事故 A:0件 B:3件以内 C:5件以内 D:7件以内 E:8件以上	C	自動車・自転車などとの接触事故が5件(自動車との接触事故4件、自転車との接触事故1件)あった。命に関わるような事故はなかった。	交通安全指導・登下校指導に加えて、時間に余裕をもって行動できる生活習慣を身に付けさせ、心と時間にゆとりのある登下校を徹底させたい。
	個を見つめた指導と家庭との連携・協力の充実	問題を抱える生徒の早期発見と、早期対応を心掛けるために、担任、教科担任、部活動顧問がそれぞれの立場で個別面談を行う。また、欠席が3日続いた生徒に対しては家庭訪問を行い家庭と連携した対応に努める。	B	昨年度と比べ、退学者は7名から2名に減少、転学者は8名から3名に減少している。問題を抱える生徒について、毎週の学年会で情報共有し、家庭と連携した対応に努めている。	コロナの影響により、中学次には「体調が悪い時は休むように」と言われてきた世代である。簡単に欠席するのではなく、自己の体調把握の下、頑張れる生徒の育成に努める方策を考えたい。
	危機管理体制の構築	学校における組織体制や安全教育の重要性和緊急性を認識し、安全に関する意識や安全教育に関する指導力を一層高めるために、学校や地域の実態に即した研修及び訓練を実施する。	A	緊急避難訓練(4/26、10/25)を年2回実施している。避難中は私語なく迅速な行動ができており、講評をお願いした消防士より高い評価を得ることができた。	緊急避難訓練を年2回以上実施し、「自身の安全確保」「周囲の人々や建物の状況確認」「責任者への報告」などを徹底していきたい。
教育相談	相談体制の充実	担任、教科担任、部活動顧問等と教育相談担当、養護教諭、スクールライフアドバイザーが連携を取りながら、生徒の悩みや課題の早期解決に努める。	A	相談の来室人数が昨年度よりもかなり増えた。本人に合わせて相談担当者を決めたり、繰り返し話を聞いたりしたことで、課題の解決や気持ちの切り替えなどができ、大きな問題となるケースはなかった。	相談によって生徒が安定した学校生活を送るための一助としての役割が担えている一方で、相談人数が増えており、教員間のより一層の連携ができるよう努めたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育相談	特別支援教育の充実	学習や生活上での困難さを持つ生徒に対して、学校全体で支援体制を確立し、通級による指導等、個に応じた適切な支援や指導を行うよう努める。 通級指導による単位修得率 A:100% B:99～80% C:79～60% D:59～40% E:40%未満	B	今年度の通級による指導の単位修得率は、進路変更した生徒や、通級による指導に参加しなかった生徒2名がいたため、17名中15名の習得を予定しており、修得率は88%と見込まれる。	受講人数が多く、例年に比べ生徒や保護者と細やかな関わりができていなかったと感じている。また、受講意欲のない生徒（保護者に受けさせられたと感じている）も見られた。次年度は受講人数を適正化し（12名程度まで）個に応じた支援ができるよう努めたい。
特別活動	部活動の充実	各部活動の入部状況を把握し、部活動加入率80%以上を目指す。部活動の活性化を図り、生徒の部活動充実度を高める。 部活動加入率 A:80%以上 B:79～75% C:74～70% D:69～65% E:65%未満	A	部活動加入率は、87%（兼部を除いた実数）。1年生は部活動に加入するように積極的に促しているのもので、その成果が出ている。	加入率に対して活動状況が良いとは言えない。熱心に指導をしてくれる教員は、他校と比べても遜色はないので、部活動に対する価値や意義を生徒にもっと浸透させたい。
	生徒会活動の充実	学校行事、生徒会活動等を充実させ、生徒が中心となって運営できるよう、リーダーとなれる生徒の育成を目指す。 各学年4名以上のリーダー育成。合計12名以上。 A:12名以上 B:11～9名 C:8～6名 D:5～3名 E:2名～	A	1年生7名、2年生6名、3年生6名の計19名の生徒会役員が、学校行事（クラスマッチ、新商祭、講演会など）において中心となって運営を行うことができた。	現在の状況を継続していけるように努力しつつ、進化できる部分は積極的に取り入れていきたい。
進路指導	進学指導の充実	進学希望者全員の進学を実現する。 進学決定率 A:100% B:99～98% C:97～96% D:96～95% E:95%未満	C	進学希望者34名中33名の進路が決定している。 (進学決定率97.1%)	国公立大学から専門学校までの幅広い希望に対して柔軟に対応していく必要がある。特に語彙力などの基礎学力が必要不可欠である。
	進路実現に向けた取組の充実	進路実現に向けて、積極的に取り組む生徒の育成を目指す。 進路ガイダンス満足度 A:100% B:99～98% C:97～96% D:96～95% E:95%未満	C	企業側からのアンケートも良好であり、生徒のアンケート調査も大変満足と満足合わせて、96.9%であった。	さまざまな行事を企画・運営しているが、生徒や保護者の要望と企業側や大学側が求めていることが合致できるよう努力していきたい。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現する。 就職内定率 A:100% B:99～98% C:97～96% D:96～95% E:95%未満	B	就職等希望者65名中64名が内定されている。 (就職決定率98.5%)	公務員を希望している生徒や、就職試験においてSPIが課される企業も増加しているため、学力を身に付けさせる必要がある。
キャリア教育	体験学習の充実	地域に貢献し、地域に愛される活動を促す。 インターンシップを通して将来の進路選択に役立てる。 インターンシップ満足度 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:60%未満	A	インターンシップは2月6、7日の2日間実施した。インターンシップでのマナー研修や自己紹介文作成などを通して心構えができつつある。	生徒の希望業種によってインターンシップ先を決定している。今後、体調管理をしっかりを行い、充実した実習となるようにしていきたい。
	資格取得指導の充実	各種検定試験による資格取得を身近な目標として捉え、努力させる。さらに高度な資格取得に向け、挑戦する意欲を育てる。 1年生 検定3級2種目以上（目標70%以上） A:70%以上 B:69～60% C:59～50% D:49～40% E:40%未満 2年生 検定2級2種目以上（目標50%以上） A:50%以上 B:49～45% C:44～40% D:39～30% E:30%未満 3年生 検定1級取得者（目標30%以上） A:30%以上 B:29～25% C:24～20% D:19～10% E:10%未満 3年生 検定1級3種目以上（目標10名以上） A:10名以上 B:9～8名 C:7～6名 D:5～4名 E:4名未満	B	全国商業高等学校協会主催の検定試験（全9種目）において、1年生は133名中112名が3級2種目以上、2年生は103名中43名が2級2種目以上、3年生は99名中32名が1級取得を達成した。 1年生 検定3級2種目以上（結果84.2%）→A 2年生 検定2級2種目以上（結果41.7%）→C 3年生 検定1級取得者（結果32.3%）→A 3年生 検定1級3種目以上（結果11名）→A	各学年、少人数授業や生徒の理解度に応じて習熟度別学習を行うなどの指導体制を行うことで、基礎・基本の定着が図ることができた。上位級の資格取得につなげていくためにも、意欲的に学習に取り組む姿勢も育てていきたい。
	地域との連携活動の充実	地域との連携や協働する機会を積極的に教育活動に取り入れ、地域活性化に取り組む生徒の育成を目指す。 地域や本校主催のイベントへの参加生徒数 A:180名以上 B:179～150名 C:149～120名 D:119～90名 E:89名未満	A	地域の方から依頼を受けたり、本校が企画をしたりして278名の生徒が地域イベントに参加した。地元企業や行政とのつながりを広げ、深めていくことができた。	地域との連携が深まってきており、多くの地域イベントに参加することができた。今後も授業や部活動等で生徒が主体となり、活動する機会を設定し、地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材を育てていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	時間外勤務月45時間の遵守を目指し、時間外勤務月40時間以上の教員に対しての声掛けと、当該教員数(4月末時点23名)の50%削減を図る。 A:50%以上 B:49～40% C:39～30% D:29～20% E:19%未満	B	1月時点での時間外勤務、月40時間以上の教職員は14名となった。	日常業務において終業時刻での退勤の声掛けや意識付けを行った。今後もグループウェアやマチコミ等を活用したペーパーレス化に努め、会議や行事の精選といった業務改善に取り組んでいきたい。
	職場環境の整備	定期的に衛生委員会を開催することで、職場環境改善に関する教職員の要望の収集に努め、早期の対応を図る。また、学校医による定期的な健康相談及び管理職による面談、福利厚生制度についての周知・奨励を行うことで、教職員のメンタルヘルスの向上を図る。	B	教職員の心身ともに健康であるために、初任者を中心にメンタルヘルス相談の案内や声掛けを心掛け、相談をしやすい職場づくりに努めた。	明るい雰囲気や働きやすい雰囲気を作ること、教職員の健康の保持増進や安心感を持てる職場づくりを心掛けたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。